

最新岸壁の設計法 天 埜 良 吉 著 技 報 堂 刊

第二次世界大戦に端を發した技術革新の嵐は、その後工学と経営学の分野で飛躍的な發展を遂げ、今や第三次産業革命的な様相をもつて、世界の産業構造を變革しようとしている。

一方港湾技術の面においても、電子工学や合成化学のごとき、はなばなしきはないが、地味ながら着実な發展は、多くの技術的障害を克服して、岸壁工法における新領域を開拓し、戦後十指に達する大型岸壁を建設して、わが国産業基盤合理化の要請に応えつつあることは周知のことである。

このようなとき、多年港湾技術のトップ マネージメントに携わつていた著者が、戦後における港湾技術革新の総決算として本書を書かれたことは、すこぶる人を得、時宜を得た

ものであるといえよう。

本書は従来の港湾工学関係の本とは若干趣を異にしている。

従来のものが、おおむね、おのこの岸壁型式について、それまでに確立された一般的設計法を述べるにとどまり、岸壁設計の基本的理念および地震時の取扱いに、いくぶん物足りない感があつたのに対して、著者は“重力式、矢板式、棧橋等の岸壁型式の區別は、むしろ材料、施工法、などに主眼をおいた構造的な問題であり、その岸壁が全体的に安定を成立しうるか否かの問題は、地盤上の安定問題に帰着される”との基本的態度をとり、新しい岸壁耐震設計の理念を、体系的にとりまとめたものである。

従つて、岸壁耐震設計の基本的条件として、地震時の斜面の安定、地

盤支持力について、特に重点的説明を行い、さらに従来の震害例の解析や最近つくられた大型岸壁への適用について、この理論の展開を試みている。

全編を通じてのわかりやすい記述法や豊富な計算例は、この理論を高踏的なものにとどめずに、できるだけ広く一般技術者に納得させようとする著者の意図が察せられるし、また岸壁設計のその他一般的事項について周到に配慮、注意されており、計算図表が多く挿入されていることなどは現場技術者にすぐにも役立つたせたいとの考えからであろう。

本書は単に港湾技術者ばかりではなく、一般耐震構造物の設計、施工に携わる土木技術者にも、ぜひ一読をおすすめしたい。

著者：正員 前運輸省港湾局長、  
B 5判 110 ページ、上製函入、定価 500 円、昭 34 年 2 月 28 日発行

土木学会誌編集委員

委員長 田原保二	副委員長 井口昌平	委員 田村浩一	委員 三上澄
委員 粟津清蔵	委員 尾崎寿	委員 高橋克男	委員 三宅正夫
同 伊東茂富	同 大西清一	同 武部健一	同 都淳
同 諫山廉	同 岡崎忠郎	同 寺島重雄	同 南後
同 上東公民	同 奥村敏恵	同 樋口芳雄	同 南部三郎
同 尾形武男	同 海保久雄	荒井利一郎(中部支部)	小西一郎(関西支部)
尾崎晃(北海道支部)	後藤幸正(東北支部)	幹事 深谷俊明	
網千寿夫(中四支部)	山崎徳也(西部支部)		

会 員 入 退 会 に つ い て (昭.34.4.30 現在)

1. 入 会 70 名 (特 1 C 2, 正 68)
2. 退 会 512 名 (名誉員 1, 特 3 2, 正 30, 学 19, 滞納者整理 460)
3. 転 格 410 名 (学より正へ 410)

会 員 現 在 数 (昭.34.4.30 現在)

名誉員	賛助員	特 1 A	特 1 B	特 1 C	特 2 級	特 3 級	正 員	学生員	増 減	計
25	30	17	12	71	109	94	13 201	728	-442	14 287

昭和 34 年 5 月 10 日印刷  
印刷者 大沼正吉  
編集者 国分正胤  
定 価 100 円

昭和 34 年 5 月 15 日発行  
印刷所 株式会社 技報堂  
発行所 社団法人 土木学会  
振替 東京 16826 番

土木学会誌 第 44 卷 第 5 号  
東京都港区赤坂溜池 5 番地  
東京都新宿区四谷一丁目(外濠公園入口)  
電話 (35) 5130・5138・5139 番